

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000259		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家		
所在地	小樽市桂岡11-13 (電話) 0134-61-2511		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年1月26日	評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】 (20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 11月 10日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤19人, 非常勤9人, 常勤換算20人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 モルタル 造り		
	2階建ての 1～2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 15,000 円 暖房費(11~4月) 9,000 円
敷金	有()円・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 有りの場合償却の有無 無 有 / 無		
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	27名	男性 5名	女性 22名
要介護1	7名	要介護2	11名
要介護3	3名	要介護4	6名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82.1歳	最低 64歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひまわり会札幌病院・おきつ歯科・木下病院・太田整形外科病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成12年に開設したグループホームであり、歴史が古く地域住民との交流も盛んで、地域の一員として町内や小学校の行事に招待していただき、利用者も積極的に参加をしている。職員の定着率も高く顔馴染みの職員によるケアに心がけ、利用者や家族の安心に繋がっている。運営法人の全面的な支援の下、職員はケアサービスに専念できる体制が整っている。管理者はじめ職員は認知症高齢者の特性を理解しており、「一日一日をその人らしく生きがいを持ち安心して心豊かに過ごせるように」という、基本方針を実行した支援を行なっている。すでに終末ケアも実践している。今後ますますほかのホームの手本となることが期待されるグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目「プライバシーの確保の徹底」と「災害対策」について、職員全員で取り組み具体策を検討し改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義と活用の仕方を理解しており、自己評価はユニット毎、職員全員で取り組み1項目毎に討議し纏め上げ実施している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヵ月毎順調に開催されている。ホームの近況報告や地域交流についてなど、多様な議題について議論されており、そこでの意見や要望をホームや運営法人で検討し、ホームのサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱も設置してあるが、内部、外部の苦情相談窓口を明確にしている。意見や要望、苦情は、家族が来訪した際に直接伺うこともあるが、書面や電話で随時受け付けし、家族対応記録簿も作成されており、ホーム及び運営法人で対応検討して速やかに改善し、ホームの運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当時から、地域住民との関係は良好で、町内や小学校の行事に招待していただき、積極的に利用者も参加をしている。またホームの行事にも参加協力していただき、地域住民と支えあう双方向の協力関係作りにも努力されている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を運営法人全体で理解し、「地域に愛され、利用者一人ひとりが生きがいを持ち、楽しく安心して心豊かに自由に生活が出来る家。」を盛り込んだホーム独自の運営理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の随所に運営理念を掲げ、管理者と職員は、毎朝の合同申し送り時に理念を唱和し、カンファレンスや内部研修、また日常の会話の中でも、確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当時から、地域住民との関係は良好で町内や小学校の行事に招待していただき、積極的に利用者と参加をしている。またホームの行事にも参加協力していただき、地域住民と支えあう双方向の協力関係作りに努力されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義と活用の仕方を理解しており、自己評価はユニット毎、職員全員で取り組み、1項目毎、討議し纏め上げ実施している。内部研修でも1カ月に1項目ずつ見直し、レポートを提出し改善項目にも取り組んでいる。		

小樽市 グループホーム 里の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月毎順調に開催されている。ホームの近況報告や地域交流について、多様な議題について議論されており、そこでの意見や要望をホームや法人で検討し、ホームのサービス向上に活かしている。議事録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営法人の担当者や管理者が市の窓口に出向き、担当者から情報収集やアドバイスをいただいたりしている。また「里の家だより」を届けたり管理者会議に出席するなど、常に行政と連携を図り、サービスの質的向上に向けた協働に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「里の家だより」を発行し、ユニット毎行事の写真や生活の様子を写真に収め、利用者に係わる記載欄には、日頃の暮らしぶりや身体状況などをお知らせし郵送している。また家族来訪時にも詳しい報告や電話連絡をしたりしている。金銭出納についても毎月領収書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置してあるが、内部、外部の苦情相談窓口を明確にしている。意見や要望、苦情は、家族が来訪した際に直接伺う事もあるが、書面や電話で随時受け付けし、家族対応記録簿も作成されており、ホーム及び運営法人で対応検討し速やかに改善し、ホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動は殆どなく職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアに心がけている。やむを得ない離職の際は、職員全員でフォローし、利用者や家族が不安を抱かないように配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内のユニット毎の勉強会のほか、法人内合同内部研修や外部研修を受ける機会を設けており、職員は積極的に参加し、研修後はレポートを提出し、会議で報告しながら職員で共有が図られている。また働きながらお互いの資質を高める努力がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列ホームとの交流のほか、管理者はほかの業者との交流の必要性を認識し、管理者会議に出席した際に情報交換を図っている。職員も近隣のホームとの相互訪問や実践者研修の受け入れなど、ほかの業者と交流する機会を設けており、相互の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みを行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族のホーム見学や管理者や計画作成担当者が自宅訪問をし、十分話し合いをしながら進めている。また、病院からの入居の際は出向いて利用者と話をしたり、関係者から情報を収集したりしながら、利用者の生活歴や心情に配慮しながら、信頼関係構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一方的な介護ではなく、利用者の出来ることや得意なことを見極め、利用者から生活の知恵を教えていただくことも多く、共に支えあいながら生活する関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との生活の中で、一人ひとりの思いを大切にし、利用者や家族からの生活歴の情報などを把握し、その人らしい生活が出来るよう希望、意向に沿えるよう支援をしている。意思疎通が困難な方は、表情から判断したり筆談をしたりしながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時は、1ヵ月の暫定プランを作成し、すぐ支援できる体制になっている。入居後は利用者一人ひとりのより良い暮らしを支援するため、利用者や家族、医師の意見も取り入れながら、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行ない介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは1ヵ月をめぐりにホームでの生活状況や利用者、家族の思いを評価し、具体的なケアプランを作成している。その後は3ヵ月毎に、アセスメントの見直しやモニタリングを行ないカンファレンスで課題や改善点を話し合い評価して、新たなプランを作成している。また状況変化に応じてケアプランに追加記入し、職員全員が確認できるようになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応じ、通院介助や買物の付き添い、また入院した際には早期退院に向けた支援も行なっており、その時々で柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を希望する利用者には、そのまま継続していただき、一人ひとりについて支援を行なっている。ホームは複数の医療機関との連携ができており、24時間対応のほか2週間に一度の往診（必要に応じて週一度）や訪問歯科など、利用者が適切な医療を受けることが出来るよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、過去に看取り介護が実施されたケースがあり、可能な限りホームで生活していただくにはどのようにしていくか、体調の変化に伴い利用者、家族、医師を交えて、その都度確認しながら、繰り返し話し合いを持ち、対応方針について慎重に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、毎日の生活の中で気配りをしている。個人情報の取り扱いについても重要事項説明書に明示しており、書類の管理も適切に行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの声に耳を傾け「あとで」や「待って」を禁句とし、職員は常に会話を大切にしている。その日の体調や希望にあわせ日々その人らしい暮らしが出来るよう、出来る限り希望に沿うように見守り支援をしている。		

小樽市 グループホーム 里の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを参考にユニット毎立てられており、それぞれ工夫が見られる。職員も一緒に食事をし、さりげなく介助をし、声掛けや見守ったりしている。利用者は、家庭的で和やかな雰囲気の中でゆっくりと食事の時間を楽しんでいる。食事の準備や片付けは出来る範囲でお手伝いしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は目安として決められているが、入浴日にとらわれず、利用者の体調や希望にあわせ、ゆっくりと入っていただくよう支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、家庭菜園のほか、庭のさくらんぼや栗の実の収穫、趣味の編み物、掃除、買物、行事の相談、小学生との交流、ボランティアによる日本舞踊など、役割や楽しみごとは、利用者の有する力や得意分野を活かしながら、さりげなく見守り支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や状況に応じて、毎日のように散歩や買物に出かけたり、喫茶店や外食、花見、系列の整骨院にドライブがてら通院したりと1年を通して外出の機会を設け、季節を肌で感じていただけるよう支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者はじめ管理者、職員は鍵をかけることの弊害を十分理解しているが、不審者侵入防止と、利用者の安全第一を考え、家族の理解をいただいて、玄関は施錠されている。毎日行なわれている外出時には、職員が開錠し利用者と一緒に出かけている。		

小樽市 グループホーム 里の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施しており、災害時のマニュアルも作成されている。消火器の使い方や救命救急訓練も消防署指導の下、実施している。階段には折りたたみ可能なスロープも設置されている。地域の方々は協力的であるが、次回の推進会議で協力をいただけるよう、再度働きかける予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分摂取量や食事の量もチェック表に細やかに記載されており、栄養バランス、好みなどが考慮された献立を作成している。また利用者の状況変化に応じ、医師と相談し献立の対応を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には行事の写真が貼られ、季節の飾り付けや利用者と職員共同の手作りの品が飾られている。ソファやテーブル、畳敷きの小上がりの場所もあり、利用者が思い思いの場所で寛ぐことが出来るようになっている。広い階段は歩行訓練の場所になっているほか、折りたたみ式のスロープが設置してあり、車椅子対応も出来るようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具や馴染みのものが持ち込まれ、配置も工夫し、家族が来訪した際にもゆっくり過ごすことも可能であり、利用者が落ち着いて安心して、居心地よく過ごすことができる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。